

第3 農業生産の現状と今後の方向

1 重点作目の概要

米：米については依然として潜在生産力が需要を上回っており、生産調整を余儀なくされている現状である。そのため生産調整推進対策の定着化を図りながら、農地の流動化、効率的・安定的農家の規模拡大、稲作集団の育成、共同利用施設の導入等により生産コストの低減を図り、また農地の地力維持増強を推進し、良質米コシヒカリを中心に安定生産、品質向上を確保し、稲作を主軸とした輪作体系の確立を図る。

麦：生産調整推進対策の実施に伴い、主要転作作物として重要な位置を占めるものである。このため生産調整推進対策との有機的結合、農用地の高度利用の観点に立って、ほ場条件の整備を促進し土地利用型の主要作物として振興を図り、需要の動向に即応した良質麦の生産拡大を推進する。

豆類：大豆については麦同様転作作物として、また地力維持作物として重要な位置を占めており、今後も生産調整推進対策を基調に生産の拡大を積極的に推進し、麦プラス大豆の輪作体系を基本に団地化を推進し単収の向上と品質の向上を図る。

野菜：自然的、社会的に優位な立地条件を礎に首都圏への供給基地として、いちご、ナス、トマト等の野菜の生産は順調に推移している。今後は多様化している需要動向を的確にとらえ安全安心な野菜を生産するなど、産地間競争に耐え得る生産出荷体制を確立する。

果樹：なしを中心に、地理的・気象的条件を活かして果樹栽培が行われている。今後は既存産地を中心に「うまい果物づくり」を推進し生産の拡大を図る。このため、優良品種への更新を進め、栽培技術の向上及び規格の統一による品質の向上と均一化を図り、共同販売の強化、需要の拡大対策を推進する。

花卉：北部水田地帯を中心に生産されており、広域出荷組織体制で新しい農業の姿として注目されているが、需要の動向に対応し、今後作型の組み合わせと栽培技術の高位平準化や稲作等他部門の合理化等に努め、生産の拡大を図る。

飼料作物：水田裏飼料作物の作付けを推進し、飼料作物の生産利用技術を改善し飼料コストの節減を図るとともに、畜産農家及び園芸農家等との需供状況の把握に努め、組織的流通体制の確立を図る。

乳用牛：生産コストの低減には飼料の自給率向上が必要であり、生産調整等による未利用農地等への飼料作物の積極的な作付けを推進し、乳用牛群検定推進事業や受精移植関連技術を活用した牛群の改良による生産性の向上に努め経営改善を図る。ふん尿処理については、耕種農家と園芸農家の耕畜連携を推進する。

肉用牛：繁殖、肥育の地域内または経営内一貫体系を促進し、粗飼料の生産・利用の合理化による自給率の向上と、ふん尿処理については地力増強のため、地域内流通を促進する。

豚：生産性の高い優良種豚の導入、系統保存等が行われているが、今後も繁殖肥育の一貫生産経営農家の育成を図る。また、土づくりとあわせた合理的なふん尿処理体系の確立に努める。

養鶏：採卵、ブロイラーともに需要に見合った計画生産に努め、環境保全に留意しながら自衛防疫組織の育成を図り疾病予防に努める。